

旧総合資料館跡地等の活用に係る整備検討支援業務

検討結果報告書

目次

1. 基本方針	1
2. 整備プラン作成に当たっての考え方	3
舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能	4
舞台芸術・視覚芸術拠点施設の想定面積の検討	10
舞台芸術・視覚芸術拠点施設の概算工事費の検討	11
付帯施設	13
エリア内他施設（特に植物園）との連携	14
景観・まちなみ	16
3. 整備プラン	17
整備プラン ゾーニング例①・②	18
整備プラン ゾーニング例③、各ゾーニング例の評価	19

基本方針

基本方針

■基本方針

- ・本書は、「旧総合資料館跡地等の活用に係る整備内容の検討について(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)」を基本方針として、舞台芸術・視覚芸術拠点施設に必要な諸室構成・規模について整理するとともに、北山エリア全体の魅力向上につながる付帯施設やエリア内他施設(特に植物園)との連携を考慮の上**整備プランを検討したものである**。なお、基本方針として以下の「整備の方向性」及び「コンセプト」は全体を包含する考え方である。

【整備の方向性】

舞台芸術・視覚芸術拠点施設と北山エリア全体の魅力向上につながる付帯施設を一体的に整備することで文化芸術とまちづくりに両輪で取り組む

【コンセプト】

府民一人ひとりが誇りと愛着を持てる文化芸術を軸とした交流創造空間

(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋)

整備プラン作成に当たっての考え方

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

■ 劇場(ホール)機能

演劇を中心に伝統芸能やバレエ、ダンス等の舞台芸術や映画・映像などの多様な分野の公演に対応し、舞台と客席の一体感を特徴とした劇場機能を提供する。

(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋)

<舞台部門>

- ・プロ・アマチュアを問わない幅広い利用者による様々な分野の公演に対応するため、舞台形式・寸法・面積については同様の実績を有する**京都府文化芸術会館と同程度を想定**する。(全幅27m(15間)、奥行11m、舞台開口幅13.5m(7.5間)、高さ8.1m(27尺))
- ・**搬出入の利便性**は「選ばれるホール」の必要条件であり、搬出入ヤードは舞台近接で大型トラックに対応できる広さが必要である。また、早朝や深夜の作業が発生する可能性があるため、近隣に騒音が出ないようにトラックを停めた状態で**シャッターが下ろせるように**することが求められる。
- ・舞台で使用する各種備品や**舞台照明、舞台音響などのための倉庫**が必要である。
- ・**ピアノ庫**はフルコンサートグランドピアノが2台収納できる広さとし、恒温恒湿に保てるように空調設備を設置する。

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

<客席部門>

客席規模に対する考え方

- ・ 全国公立文化施設協会では500席未満のホールを**小ホール**、500席以上1,000席未満のホールを**中ホール**、それ以上の客席数のホールを**大ホール**と分類している。ここでは、さらに1,600席以上のホールを**特大ホール**とし、それぞれの特徴は下表のとおり。

客席規模に対する考え方

	小ホール ~499席	中ホール 500~999席	大ホール 1,000~1,599席	特大ホール 1,600席~	
想定客席	400席	800席	1,200席	1,600席	
京都市内事例	文化芸術会館 (422席)	子ども文化会館 (608席)	京都四条南座 (1,082席)	ロームシアター京都 メインホール(2,005席)	
		ロームシアター京都 サウスホール(716席)	京都劇場 (941席)		
設置目的	創造・育成	市民発表・学校利用	興行・コンクール		
利用者	子ども・初心者も使いやすい 文化団体単独	連合組織・教育団体	プロ公演 上演団体・興行会社		
演目	演劇	◎	○	△	-
	ミュージカル	○	○	◎	◎
	オペラ・バレエ	-	△	○	◎
	ダンス	◎	◎	○	△
	オーケストラ・吹奏楽・合唱	○	○	◎	◎
	室内楽	○	◎	○	△
	独奏・独唱	◎	○	△	△
	歌舞伎	-	△	◎	◎
	日本舞踊	◎	◎	○	-
	文楽	△	◎	△	-
能・狂言	◎	△	△	-	
求められる施設・設備	コンパクト・簡易操作		⇒	大規模・高性能	
コスト	建設費	低	⇒	高	
	維持管理費	低	⇒	高	

- ・ **小ホールは小規模な団体でも気軽に使用でき、創造や育成に適した規模である。また、すべての客席が良好な鑑賞条件の中に収められるので、舞台芸術の鑑賞体験の少ない子どもたちにも楽しんでもらえる規模である。**
- ・ **中ホールの規模では、学校単位の利用や文化団体が合同で行う催しに対応する規模であり、大ホール、特大ホールは各種コンクールや興行利用に適する規模となる。**
- ・ 客席規模ごとに使用目的や利用者の属性、上演に適した演目などが異なり、客席数は設置目的との関連性が強い。**本施設は、文化芸術を軸とした交流創造空間拠点であり、プロ・アマチュアを問わない多様な人々の創造活動を支援することが意見聴取会議等において求められていることから、今回の想定における客席規模は400席とするが、今後の議論等によっては規模の再検討が必要となる可能性がある。**

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

客席について

- すべての客席が視覚的にも聴覚的にも良好な鑑賞条件の中に納まるように配置するため、客席の幅は舞台の開口幅よりも広くなりすぎないように配慮するとともに、**最大視距離は舞台上の細やかな表現も見極めることができる距離^{*}**となるよう工夫する。
(※日本建築学会の資料では演技の中心から15m以内とされている。一方、防災計画および京都市建築基準条例、京都市火災予防条例などの各種計画において避難における通路幅の規定が生じるほか、車いす席配置等のバリアフリー計画において視距離が伸びる可能性がある。)
- 開演から終演までの時間を快適に過ごせるように**客席間隔**は前後・幅ともにできる限り**ゆとりのある計画^{*}**とする。
(※近年の事例では前後間隔950mm・幅520mm前後が多い。)
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」及び「京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例」に基づき、**車椅子使用者用区画**を設置する。
- 客席内の通路は緊急時にも安全かつ迅速に避難できる配置とし、**車椅子が通行する通路については京都市建築基準条例に基づき通路幅を120cm以上**とする。
- 客席後方に客席とは遮音されているがガラス越しに舞台が見える**親子鑑賞室**を設ける。音はモニタースピーカーで提供する。

<ホワイエ部門>

- 一般来館者と観客などのホール利用者は**明確に区画できるようにゾーニング**を分ける。
- 入場者をチェックする「**もぎり**」の**スペース**を設け、隣接する位置に**主催者控室**を設置する。
- 車椅子使用者、身体の不自由な方、小さな子ども連れの方など、多様な人が利用できる**多機能トイレ**を設置するとともに、混雑を防止するため十分な数量を用意する。

<技術部門>

- 舞台技術に関連する諸室**を適切な規模と位置に設ける。
- 舞台機構設備**については、操作は舞手下手袖で行い、すべての機器を電動とするため、舞台機構制御盤のスペースを設ける。(専用室を設ける必要はないので面積参入は必要ない。)
- 客席後方**には舞台照明、舞台音響のために**調光操作室と音響調整室が必要**であり、少人数のオペレーションのために、一室にまとめることも可能。
- 客席側からの舞台への投光のために必要な諸室として、客席前方の両サイドに**フロントサイド投光室**、天井部に**シーリング投光室**、客席後方の上部に**フォロースポットライト室**を設ける。(設置の仕方により面積参入の必要性が異なるので、設計段階での協議が必要。)
- 舞台音響設備**のために**アンプ室**を設置し、騒音、発熱対策を講じる。

<楽屋部門>

- 楽屋は**大、中、小楽屋**とし、主役級や男女などで楽屋割りできるようにし、それぞれ**20㎡、30㎡、60㎡程度**とする。
- 楽屋に近接して公演団体等の**スタッフのための控室**を設置する。
- 舞台に近接して、準備が整った出演者の待機場所となる**楽屋ロビー**を設ける。
- その他、**給湯室、楽屋トイレ、シャワー室、洗濯室、倉庫等の諸室**を設ける。

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

■創作機能エリア

豊かな自然環境の中、多様な人々との交流によって創造性を刺激されながら、演劇、伝統芸能、ダンスなどの多様な分野の創作(練習)活動ができる機能を提供する。また、子どもたちをはじめとした幅広い府民が文化芸術に触れられるワークショップなど多目的な利用を想定する。

(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋)

<練習室>

- 多様な創造活動や発信のための施設として、北山を訪れる人がこの場所にくれば、いつも何か芸術発表に触れあえるような環境を目指す。
- 練習室(小)(30㎡程度)**と、**練習室(中)(60㎡程度)**を2室ずつ以上設け、日常的な文化芸術創造活動に対応するとともに、賑わいの創出に寄与する施設とする。
- 練習室(大)**は、ホールの舞台寸法に準じた180㎡のものを設け、ホールでの本番利用と同等の練習ができるようにする。
- 練習室は、いずれも遮音性能や室内の音響性能に配慮し、音環境を整える。
- 練習室(大)は、ダンスなどの身体表現に使われることを想定し、床は舞台と同等の弾力を持つ構造とする。また、バレエバーや壁の一面は全面鏡を設置する。

<作業室>

- ホールで使用する衣裳、小道具などの製作作業やメディアアートの作品づくり等のための**作業室**を2室設置する。
- それぞれの作業に必要な機材を設置し、空調、換気にも十分配慮する。

<その他の諸室>

- 創作機能エリアには、男女の**更衣室**、**備品庫**、**トイレ**などを設ける。

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

■展示(ギャラリー)機能:展示室とホワイトキューブについて

絵画、彫刻、工芸作品等の様々な分野の美術工芸作品の展覧会に対応し、北山エリアを訪れた人々が気軽に鑑賞できるよう室内の様子がうかがえるような開放的な展示機能を提供する。

(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋)

<展示室・ホワイトキューブ>

- ・ **展示室**は、アマチュア団体でも借りやすくするため、**100㎡程度**とし、**可動間壁などによって隣り合う2つの展示室を一体で使用**できるようにする。
- ・ **展示室は天井高さを4m以上**とし、大型の絵画や書道の展示等の高さを必要とする展示にも十分な高さとする。
- ・ **ホワイトキューブ**は展示系アートと舞台芸術系アートを融合する空間であり、美術作品の展示だけではなく、メディアアート(デジタル・テクノロジーを活用した芸術作品の総称)の発表やダンスや演劇などの身体表現、さらにはそれらのジャンルをクロスオーバーする作品の発表の場として「**ホワイトキューブ**」として設置する。メディアアートは現在進行形のアートであり、これまでの固定した表現方法によらないため、特にホワイトキューブが必要となる。なお、天井高さは7mを確保する。

<控室>

- ・ 展示室およびホワイトキューブの利用者用に20㎡程度の**控室**を用意する。展示の準備室としての利用の他にホワイトキューブでの出演者の楽屋としても利用できるよう、展示室およびホワイトキューブへの動線に配慮する。関係者の準備や休憩等の利用を想定して展示室等に近接して控室を設置する

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能

■ 交流・発信機能

北山エリアのエントランスとしての役割とともに、文化芸術を軸に多様な人々が交流して発信できる機能を提供する。

(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋)

<エントランスロビー>

- ・建物の主入口内の空間は、それぞれの目的施設にアプローチするためのスペースであり、ホールの開場を待つ人々の待機スペースとなることから、**できるだけ大きな空間を用意**する。
- ・各部門への**動線がわかりやすい**ことや会場待ちの人々が動線の妨げにならないように配慮する。
- ・エントランスロビーが**隣接施設との結節点**となることを考慮したゾーニング計画とする。

<プロムナード>

- ・京都府立大学・歴彩館から京都府立植物園と京都コンサートホールの間を抜けて北山通りにつながるプロムナードを**エリア全体を南北に結ぶ歩行者空間**として設ける。
- ・本施設はプロムナードに面して開かれた施設とし、**交流・発信拠点**としての機能を設ける。
- ・プロムナードに面する諸室は、できる限り**ガラス張りの開口部**を設け、内部の活動が見通せるようにする。
- ・北山エリアの豊かな自然環境を活かした**オープンスペース**として、パブリックアートの展示や植物園などエリアを訪れた人々を施設内に誘導することを目指す。

■ その他(全般)

<連携・相乗効果>

- ・エリア内や周辺の立地施設、地域とのハード・ソフト両面での有機的な連携を目指す。特に、エリア内中核施設である府立植物園との連携では、植物園において検討が進められている**北山門周辺の「学習拠点・標本庫」の整備との関係**を重視する。

<施設運営の適正なプロデュース>

- ・施設の適正な稼働のためには十分な広報活動が求められる他、施設の方向性を示す存在としての**プロデューサー(芸術監督)**は大事である。文化芸術に精通していることは当然であるが、人事予算等一定の実務的な能力も必要である。また、単に箱だけを先に用意しても十分な稼働は見込めないことが多いため、運営時点からだけでなく**施設整備の時点から事業者と協力**できることが望ましい。

<ユニバーサルデザイン・バリアフリーへの対応>

- ・子どもや高齢者、障害者、妊産婦など誰もが快適で安心して利用することができる空間づくりを目指す。

<環境配慮(省エネルギー)>

- ・温室効果ガスの排出削減に取り組むため、**省エネルギー性能の向上**を図る。具体的には、庇、高性能ガラスなどの外皮性能の向上や、高効率照明及び人感センサーなどの照明制御など、複数の省エネ技術の組み合わせが想定される。

<防災>

- ・構造体の**耐震安全性**や災害時の電力・通信インフラの確保、上下水道への対応など、万が一の**災害に備えた安全・安心の施設づくり**が求められる。特に劇場部分は、興行場等に係る技術指針に則り、客席や出入口、通路・廊下・階段等の構造について、火災や地震等の際に**安全に避難**ができるように計画する必要がある。

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の想定面積の検討

■ 面積算定の基本的考え方

- ・施設の構成を**機能部分**、**共用部分**、**機械室**の3つの部門に分けて算出する。
- ・なお、**建設費及び維持管理費のコスト軽減**を図るため、理想案ではなく、必要・十分な施設の規模や設備等を想定する。また、今後、**官民連携手法(PPP/PFI)**の活用も想定していることから、民間の創意工夫を引き出すために**必要最小限の要件**とする。

<コスト軽減による主な効果>

- ・維持管理費(ランニング)も含めたコスト抑制を図ることにより、府民負担の軽減と社会経済情勢の変化に対応した長期安定的な運営を目指す。
- ・利用料負担の軽減を図ることで、プロ・アマチュアを問わない幅広い文化芸術活動の支援を目指す。

■ 想定面積表

<機能部分>

- ・「1. 舞台芸術・視覚芸術拠点施設の施設機能」の内容をベースとして、必要な諸室を想定する。

<共用部分>

- ・廊下、階段などの動線部分およびDS、EPSなどの設備配管などの共用部分の面積は、類似施設の実績から**機能部分の30~40%程度**と想定する。

<機械室>

- ・空調、電気関係などの機械室の面積は、類似施設の実績から**延床面積の12%程度**と想定する。

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の概算工事費の検討

■ 工事平米単価の考え方

- 国土交通省が公表している建設工事費デフレーターの指標を参照すると、近年では**2020年から急な上がり幅**を示しており、また1970年から2022年までの全体の上昇率の平均から見ると、**1年平均約12%の上昇**がみられる。
- 以下の**公立文化施設の建設費事例**の通り、近年では建設費の平米単価は100万円に近づいており、計画中の施設では、平米単価100万以上で検討するホールも増えてきている。そのことから**本整備プランでは工事費の平米単価を100万円/㎡と想定し、延床面積に換算すると工事費は約41億5千万円～44億7千万円**となる。
- 建設工事費は現在も上昇傾向**にあり、発注時期に合わせて補正する必要がある。



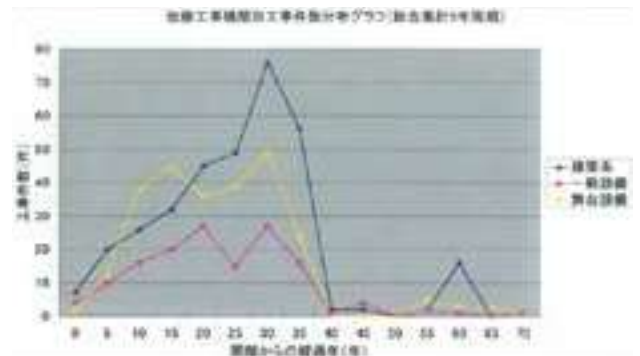
【国土交通省 建設工事費デフレーター (2015年度基準)(非住宅:鉄筋RC)】

公立文化施設 建設費事例

割戻平米単価	発注者	延床面積	ホール席数	落札時期	落札価格	入札時の平米単価	デフレーター	
	新鹿島市民会館	鹿嶋市	2,678㎡	大ホール750席	2021年3月	2,555,400,000円	95万円/㎡	102万円/㎡
	(仮称)四万十市文化複合施設	四万十市	6966.09㎡	大ホール800席/小ホール360席	2021年4月	5,906,300,000円	85万円/㎡	91万円/㎡
	(仮称)丸亀市みんなの劇場新築工事	丸亀市	12599.82㎡	大ホール1,308席/中ホール343席/スタジオ91席	2023年2月	11,915,500,000円	95万円/㎡	—

■ ランニングを含めたトータルコストの低減

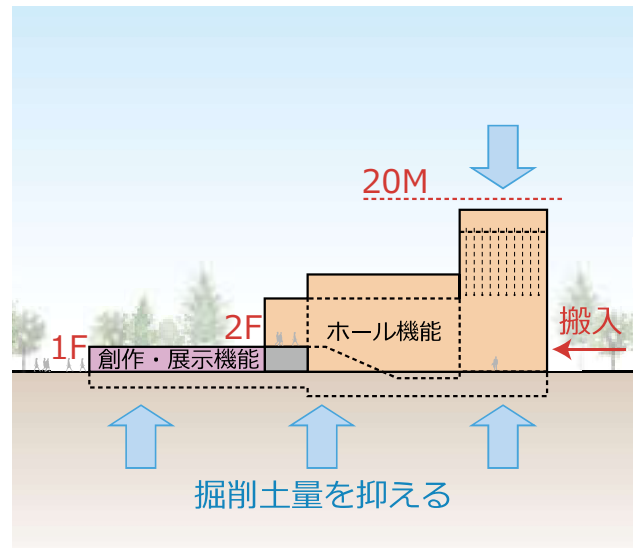
- イニシャルコストのみならずランニングコスト(水道光熱水費を含めた維持管理費や大規模改修費等)についても検討が必要であり、双方を合わせた**ライフサイクルの視点**での計画が求められる。
- 右表のとおり、舞台設備の改修工事の実施時期は開館後10年あたりから増加し、15年～30年に実施件数のピークを示していることから、**設備については中長期のメンテナンスを考慮した現実的な仕様**が望ましい。
- 維持管理や更新・メンテナンスのしやすさ等への配慮や、省エネルギー化・省資源化手法の徹底により、**トータルコストの低減を目指すことが重要**であり、建物設計に当たり**維持管理・運営のノウハウを取り入れる**ことが考えられる。



【劇場・ホールにおける改修工事種類別工事件数】
出典：2002年5月公益社団法人劇場演出空間技術協会(JATET)「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」

■ 掘削量を削減しコスト削減を図る断面計画

- 建設工事費の圧縮を図るため**地下階は計画しない**条件とし、特に劇場機能である**舞台のレベルを地上1階に設定**することで**大きな掘削工事の範囲を最小化**する条件とした。
- 搬出入の利便性と動線に考慮し、基本的な機能を1階レベルに計画**することを条件とした。
- 駐車場計画による構造の制約に配慮し、**建物内には駐車場を設けない**ことを想定。
- 併設する付帯施設と一体で整備した駐車場を賃貸・購入等を行なうことを視野に入れるなど、舞台芸術・視覚芸術拠点施設のみで考えるのではなく、**北山エリア全体の中で駐車場計画を整理**する。



【コストを抑えた断面計画】

2. 整備プラン作成に当たっての考え方

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の概算工事費の検討

■ 収入向上策の検討

- ・ 長期安定的な施設運営を行うためには、公費負担だけではなく、**多様な収入向上策の取組**が必要である。

<ネーミングライツ>

所在	施設名	ネーミングライツ愛称	施設内最大席数	企業名	契約期間	期間	年額(千円)
茨城	茨城県総合福祉会館	セキショウ・ウェルビーイング福祉会館	290席	関彰商事	2022-2025年	3年間	3,300
千葉	流山おおたかの森ホール	スターツおおたかの森ホール	506席	スターツコーポレーション	2024-2029年	5年間	3,600
宮城	仙台市青少年文化センター	日立システムズホール仙台	802席	日立システムズ	2021-2024年	3年間	7,000
徳島	徳島県郷土文化会館	あわぎんホール	813席	阿波銀行	2020-2025年	5年間	11,000
福島	福島市音楽堂	ふくしん夢の音楽堂	1,002席	福島信用金庫	2024-2029年	5年間	5,000
大分	ホルトホール大分	J:COM ホルトホール大分	1,269席	ジェイコム九州	2021-2026年	5年間	20,000
京都	京都会館	ロームシアター京都	2,005席	ローム	2016-2066年	50年間	100,000

<企業支援・個人支援>

新国立劇場の場合(2023-2024シーズン)

- 法人賛助会員(1口 1,000,000円から) 個人賛助会員(1口 100,000円から) インターネット小口寄付(1口 3,000円から)

特別支援企業グループ	オンワードホールディングス、木下グループ、住友化学、TBSテレビ、トヨタ自動車、ぴあ
研修事業協賛	全日空空輸
普及公演協賛	助成:ロームミュージックファンデーション 協賛:ローム、損害保険ジャパン

<柔軟な利用料金制度>

- ・ 施設の設置目的との整合性が必要ではあるが、プロによる興行利用や長期公演等については通常より高額の利用料金を設定するなど、柔軟な制度設計が求められる。

付帯施設

■付帯施設の機能について

- 「付帯施設」は、北山エリアのエントランスとしての役割を発揮し、**エリア内各施設(府立植物園、府立大学等)の役割や機能を強化・補完する施設を付帯施設として整備することでエリア全体の魅力向上を図ることを目的とする。**



(旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議(第3回)の資料)より抜粋

■付帯施設のイメージについて

- 複合的な土地利用のメリットとして、**複数の機能や異なる目的を持つ施設を1箇所に集約させることによる利用者の利便性向上**や施設間の多様な**人々の交流**などが期待できることから、全国的にも事例が増えている。
- 本件は、**舞台芸術・視覚芸術拠点施設だけでなく、エリア内各施設の付帯施設**として位置付けるものであることから、より幅広い施設形態が考えられる。今後、官民連携手法(P P P / P F I)の活用も想定していることから、**事業者との対話等により具体化していくことが望ましい。**
- 今回、**施設イメージと期待される連携効果**について以下のとおり例示する。

	求められる機能	施設イメージ	期待される施設連携効果
交流	北山エリアを訪れた人々や各施設の利用者が滞在して交流できる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ショップ ・カフェ ・迎賓 ・バンケット施設 ・みどりと文化の交流施設 ・市民・大学交流センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物に触れる機会創出 ・おもてなし施設/くつろぎ空間/回遊動線の創出 ・ウェルビーイング向上
創造	大学や文教施設が多く立地している利点を活かした新たな価値を創造する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携イノベーション施設 ・ラボ/ワークショップ施設/滞在型創作/研究施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑を守り育てる活用/研究保全への活用 ・コラボ/共同研究/人材育成への寄与
発信	文化芸術・学術等の北山エリアの魅力を発信する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・情報センター/ライブラリー等 ・植物園の学習連携 ・情報発信施 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスエントランスとしての発信 ・植物園の幅広い情報発信

エリア内他施設(特に植物園)との連携

■ 植物園等とのハード面の連携の重要性

< 植物園 >

- ・ 植物園は年間80万人を超える人々が訪れるエリアの中核施設であることから、現在検討が進められている植物園整備とは各検討段階においてハード・ソフト両面の連携策を考える必要がある。
- ・ 次の100年に向けた植物園像として「博物館機能の拡大」「子どもたちや若い世代向けの魅力拡大」、「植物多様性保全に関する研究機能の拡大」を掲げており、旧総合資料館跡地等と隣接関係にある植物園北山門周辺に整備が計画されている「学習拠点・標本庫^{*}」とは本施設の文化芸術との親和性や相乗効果が特に高いと考えられる。
(※園内で行う学習の取組や植物多様性保全の取組を推進する拠点として、標本庫、標本閲覧、植物多様性保全に関する展示、園内学習プログラムの提供、植物画ギャラリー 等が想定されている。)
- ・ 今後、植物園北山門周辺に係る整備内容の具体化に当たっては、本施設との動線計画や諸室共用による効率化、ソフト施策による魅力向上や新たな利用者の獲得といったハード・ソフト両面の連携が必要。
- ・ 北山のエントランスとなるエリアとして、北山に訪れる人達にわくわく感のある情報発信等が常に行われ、幅広い年齢層が興味を持って体験できる様な柔軟な検討が必要である。
- ・ 例えば、文化施設と植物園標本庫や展示ギャラリー等との合築などを行うなど、演劇鑑賞に来た人が、標本の展示ギャラリーを訪れたり、また、その逆に植物園に来た人が、展示ギャラリーを観覧するついでに、演劇に興味を持っていたりなど、いずれの面からもハードルの低い状況が想定され、これまで興味を持っていなかった方たちにも、両方が訪れやすい施設となり、交流の相乗効果を得て活気を呼ぶことが期待できる。

< 陶板名画の庭 >

- ・ 北山門エリアの連携整備としては、本施設の整備敷地と植物園側とが陶板名画の庭を挟んで接している状況であることから、陶板名画の庭の敷地を含めての整備の必要性を検討すべきである。
- ・ 老朽化した施設である陶板名画の庭の現状を精査し、場合によっては、施設の廃止等、北山門、本施設、陶板名画の庭のエリア全体を一体化した施設整備の検討が必要である。これにより、この北山エリアのエントランスが非常に魅力のあるものとなる可能性を持つ。

エリア内他施設(特に植物園)との連携

■エリア内他施設(特に植物園)とのソフト面の連携イメージ

<多様な人々の交流とおもてなしの場づくり>

- ・ 芸術家・研究者・学生・地域住民など多様な人々を迎え入れ、**出会いや交流を促進する空間を創出し**、しかけづくりを行う。
- ・ 「見る」「香る」「味わう」「触れる」「聴く」**五感にひびく、おもてなしの空間**を創出する。
- ・ **自然環境に囲まれた穏やかな時間を過ごすライフスタイル**を提案する。



シンボルプラザロード



パブリックアート



オープンカフェ

【多様な人々が集い・交流する空間イメージ】

<コラボレーションによる新たな価値提供>

- ・ 植物・芸術文化・学術の**コラボレーションによる相乗効果**で、表現の幅を拡げ、新たな体験を提供する。また、新たな文化創造を促進する。
- ・ 一般市民向けの出前講座やキッズラボ等を展開し、**植物・芸術文化・学術の世界**を知り、興味を抱くきっかけを提供する。



オープンスペースでの学術発表



コラボレーション・ワークショップ

【植物・芸術文化・学術の融合のイメージ】

<北山エリア内施設の魅力や情報を発信>

- ・ 学術・研究発表会・オープンキャンパスなど、府立大学の**キャンパスエントランス**としての利活用により**発信力を向上**する。
- ・ 植物・芸術文化・学術をテーマとした作品展示・ワークショップなどで、鑑賞者との接点の拡大や、人材育成、すそ野の拡大を図る。



美術展示(京都学・歴史館HPより引用)



植物園との連携(京都府HPより引用)

景観・まちなみ



【鳥瞰イメージ図】

■北山エリアのエントランスにふさわしい文化・芸術の魅力あふれる顔づくり

- ・北山エリア北東部において多様な人々が集うエントランスとしての顔づくりを目指す。また、地下鉄駅とつながる駅まち一体型の空間形成を図る。
- ・北山通沿道への文化・芸術による魅力のしみ出しを図るとともに、北山通から南にのびるプロムナードにより、通りを行き交う人々を北山エリアに誘い込み、エリア全体での回遊性の向上を目指す。



【並木みち「プロムナード」】

■「自然環境と文化芸術が共存する北山エリア」を発信するまちなみの形成

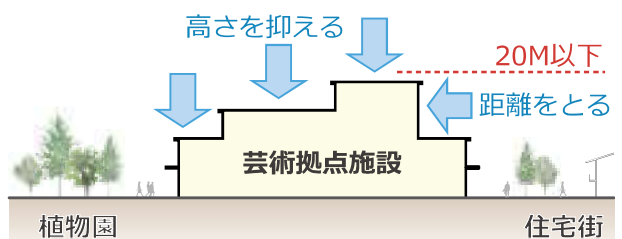
- ・隣接する賀茂川や植物園の自然環境との調和に配慮するとともに、周辺住宅地のまちなみにも配慮した景観形成を目指す。
- ・京都の中でも稀有な郊外性を活かし、緑に囲まれた中に文化・芸術・学術施設が集積する環境づくりを目指すとともに、地球環境に配慮した都市空間として、国内外からの来街者に北山エリアの魅力を発信する。



【様々な文化活動が内外で展開する広場】

■交流・憩いの場の創出、良好な環境の維持による地域の価値向上

- ・エリア内に、交流や憩いの場となるパブリックスペースを設け、緑陰による心地よい空間を提供し、地域住民・府民のウェルビーイングに貢献する。
- ・地域住民や周辺施設の管理者など北山エリアに関わる様々な人々のつながりを大切にしながらエリアマネジメントを推進していくことで、良好な環境の維持や地域の価値向上を図る。



【周辺環境との調和】

整備プラン

整備プラン ゾーニング例①

■北山エリアのエントランスとして北山通に面して芸術拠点施設を配置

- ・幅員の大きい北山通に面して芸術拠点施設のエントランスを計画することにより、**北山駅からの視認性を確保**。
- ・北山通に対して芸術拠点施設をつくることで北山エリアの情報発信を強化し、通りを行き交う人々を北山エリア内に誘い込む。
- ・エントランス、展示機能を北山駅からのアプローチに面して配置することで、「見る・見られる」の関係を構築し、**気軽な市民参加と文化芸術活動の交流**を促す。
- ・**創造機能**である練習室等の諸室及び**展示機能**であるギャラリーなどの諸室を**1階に配置し**、エントランスから両機能にアクセスできる配置とすることで、**明確でわかりやすい動線計画**を行う。
- ・**劇場機能は舞台レベルに楽屋諸室を配置し**、上手、下手とも舞台へアクセスしやすい**合理的な計画**とした。
- ・**創造機能および展示機能**については利用者動線のみならず**スタッフ通路からも両面アクセス可能な計画**とすることで**機能性を確保した計画**とした。
- ・**京都コンサートホールへの視認性と連携**を確保するため、芸術拠点施設の西側位置は**京都コンサートホールの水盤と揃えた配置計画**とした。
- ・芸術拠点施設、京都コンサートホール、陶板名画の庭に囲まれた広場を計画し、**来訪者、府民の交流イベント開催時の空間として、各施設間の連携**を促す。

整備プラン ゾーニング例②

■芸術拠点施設と隣接する植物園との連携を重視した配置

- ・植物園の敷地に隣接する位置に芸術拠点施設を計画することで、**植物園（学習支援施設）との連携**を強化。
- ・**芸術拠点施設内から直接植物園側に接続**できるように、**エントランスは東西に貫通**できる計画とし**双方施設の連携を高める**平面計画とした。
- ・芸術拠点施設が閉館している日および時間帯でも植物園にアクセスが可能なように**外部を經由して植物園にアクセスできる空地も確保**した。
- ・ゾーニング例①同様に**創造機能、展示機能は1階に配置し**、**明確でわかりやすい動線計画**とし、**劇場機能は舞台レベルに楽屋諸室を配置**することで**合理的な計画**とした。
- ・芸術拠点施設は北山通から奥まった位置に配置されるため、北山通からの視認性はゾーニング例①から劣るものの、京都コンサートホールとホール機能を備えた芸術拠点施設を東西にゾーニングすることで、**芸術拠点施設同士の連携**を促し、劇場機能を集約した**明快な計画**とした。
- ・ゾーニング例①同様に芸術拠点施設、京都コンサートホール、陶板名画の庭に囲まれた広場を計画し、**来訪者、府民の交流イベント開催時の空間として、各施設間の連携**を促す。
- ・北山通に対して整形で広い空地を確保することが可能なため、**付帯施設整備の自由度が高い**。

整備プラン ゾーニング例③

■南北に続くプロムナードとの関係を重視した配置

- ・展示機能を芸術拠点施設から独立させて計画することで、プロムナードに南北に長く面して「見る・見られる」の関係を構築し、気軽な市民参加と文化芸術活動の交流を促す。
- ・それぞれの棟間は屋外ではあるものの大屋根などを計画し雨天時でも傘を差さずに移動が可能ないように配慮を行うとともに、ゾーニング例②と同様に植物園（学習拠点・標本庫）との連携に配慮し、植物園までの屋外動線を確保した。
- ・ゾーニング例①同様に創造機能、展示機能は1階に配置し、明確でわかりやすい動線計画とし、劇場機能は舞台レベルに楽屋諸室を配置することで合理的な計画とした。また劇場機能は舞台レベルに楽屋諸室を配置し、上手、下手とも舞台へアクセスしやすい合理的な計画とした。
- ・ゾーニング例②同様に、北山通からの視認性はゾーニング例①と劣るものの、京都コンサートホールと並列した配置により、劇場機能を集約した明快な計画である。
- ・ゾーニング例②と同様に北山通に対して整形で広い空地を確保することが可能なため、付帯施設整備の自由度が高い。
- ・ゾーニング例②と同様に東西方向の幅の制約がある。また西側隣地境界線への日影規制への配慮として建物高さの決定は慎重に行う必要がある。
- ・分棟になることでのメリットの反面、共用部や搬入口が両棟で必要になることから面積効率は少し下がり全体の延床面積は増傾向となる。

各ゾーニング例の評価

- ・ゾーニング例①は北山通に面しているため、北山通からの視認性は一番高い。
- ・ゾーニング例②はプロムナードに一番長く面しているため、プロムナードへの情報発信が期待できる。
- ・京都コンサートホールとの連携という意味ではどの配置計画でも大きな差はないと考える。
- ・植物園との連携については物理的に距離の近いゾーニング例②及び③が期待できる。
- ・搬出入動線については接道しているゾーニング例①が芸術拠点施設としては望ましいが、付帯施設への搬出入動線も考慮する必要があるため、現時点での評価は難しい。
- ・付帯施設の計画においては幅などの制約が少なく、空地もゆとりあるゾーニング例②および③の方が計画の自由度は高いと評価できる。
- ・ゾーニング例①②③ともに、陶板名画の庭を挟んで本整備敷地と植物園側とが接している状況であることから、陶板名画の庭の敷地を含めての整備の必要性も検討すべきと考える。今回は言及しないが陶板名画の庭の現状を精査し検討を進めることが必要である。

■付帯施設のあり方

- ・付帯施設の具体的な機能は今後の検討となるが、北山エリアでの配置により、沿道との関係や周辺施設との連携のあり方にバリエーションが生じる。
- ・ゾーニング例②③では、駅まち一体となった空間の形成が重要となり、多様な人々が集い・交流するための機能の充実が求められる。また、沿道に対する表情に配慮し、地域の魅力を向上する都市機能の誘致が期待される。
- ・ゾーニング例①では、プロムナードと一体となって交流や情報発信を促進する機能の充実が求められる。また、植物園や大学に近接することから、連携を強化し、相乗効果を発揮する機能の誘致も期待される。